

発掘された真田の城

沼田城跡

沼田市指定史跡沼田城跡
調査・保存整備事業の成果3

『沼田城跡 調査総括報告書』の概要



令和7年(2025)

『沼田城跡 調査総括報告書』について 1

沼田城跡の概要 2

調査の成果 4

沼田城跡の本質的価値 11

破城の痕跡が示すもの -コラム- 12

Numata Castle Investigation Report(Summary) 13



沼田城本丸跡 明治から大正時代
Numata Castle (Late 19th to early 20th century)

『沼田城跡 調査総括報告書』について

沼田市史跡沼田城跡調査・保存整備事業

平成4年、沼田市は沼田城をはじめとする歴史的遺産を再評価し、沼田市全体を野外博物館とする「沼田公園長期整備構想」を策定し、その中心的存在として沼田城跡の史跡整備を検討してきました。平成29年度には構想をさらに推進するため、沼田市史跡沼田城跡調査・保存整備事業を立ち上げ、沼田公園長期整備構想の推進を図り、併せて沼田市史跡沼田城跡の上位史跡指定を目指してきました。

調査は平成30年度から令和5年度にかけて、城郭研究者等の専門家による専門部会と群馬県文化財保護課による指導・助言のもと、発掘調査・測量調査・地中レーダー探査・文献史料調査を実施しました。なお、本事業は国及び群馬県から補助金の交付を受け実施しました。

調査の過程で、発掘調査現地説明会や調査成果報告会を開催したほか、調査成果を紹介する『沼田城かわら版』（沼田市内の一般家庭に全戸配布）、パンフレット『発掘された真田の城 沼田城跡 沼田市指定史跡沼田城跡調査・保存整備事業の成果』（PRのため各地で配布）、『沼田城跡 調査概要報告書』を作成しました。



現地説明会の様子

Scene from the local briefing session



完成した報告書

Numata Castle Investigation Report

『沼田城跡 調査総括報告書』の刊行

令和7年3月、調査の成果をまとめ『沼田城跡 調査総括報告書』及び『沼田城跡 石垣調査報告書』を刊行しました。

調査総括報告書では、発掘調査・測量調査・地中レーダー探査・文献史料調査の成果をまとめました。石垣調査報告書では、沼田城の現存する貴重な遺構である本丸東面石垣と西櫓台石垣について測量調査・地中レーダー探査の成果をまとめました。これらの調査成果は11項目にまとめられ、沼田城跡の特徴や、本質的価値を明らかにすることができました。

沼田城跡の概要

沼田城跡は、戦国時代後期（天文元年（1532）等諸説あり）、沼田氏によって築かれ、この段階では倉内城と呼ばれました。戦国時代末には相模北条氏、越後上杉氏、甲斐武田氏三者の勢力がぶつかる地勢上の要衝となり、この城をめぐる争奪が繰り返されました。この頃の城の姿は全くわかりませんが、後の絵図面で「古城」とされる部分が当時の城の中心部であったと推定されます。

天正8年（1580）、甲斐武田氏配下であった真田氏が領有し、この頃から沼田城と呼ばれるようになり、天正年間には本丸、二の丸、三の丸、奥御殿等が整備されました。天正17年（1589）、豊臣秀吉の沼田領裁定により沼田城は北条氏が領有しましたが、同年の「名胡桃城事件」により再び真田氏に帰属するところとなりました。慶長2年（1597）、真田信之は五層の天守を完成させたとき、さらに慶長17年（1612）にかけて櫓、四の丸、大手枡形、惣堀を整備

し、沼田城を近世城郭として完成させました。この頃の整備状況は、正保元年（1644）に幕府の命により作成された「正保城絵図 上野国沼田城絵図」に描かれ、「五層の天守を有する沼田城」の姿が現在多くの人に共有されています。

万治元年（1658）から寛文期にかけて、真田信直（信利）は本丸地盤の嵩上げをはじめ天守等本丸内の主要施設、堀、石垣、二の丸、三の丸、二・三・四の門を改修するなど大規模な整備を行いました。この頃の沼田城下の状況は、「川場村歴史民俗資料館蔵 沼田城下絵図」等に詳しく描かれていますが、城内施設の状況は不明です。信直によって大きく姿を変えた沼田城の全容は現在明らかになっていません。

天和元年（1681）、信直は江戸両国橋架け替えのための用材請負の失策、日頃身の行いが正しくないこと、家人・領民を苦役したことを理由に改易され、翌天和2年、沼田城は破城されました。破城は短期間に



沼田城跡上空から三国山系を望む（令和2年5月撮影）
View of the Mikuni mountain range from Numata Castle (May 2020)

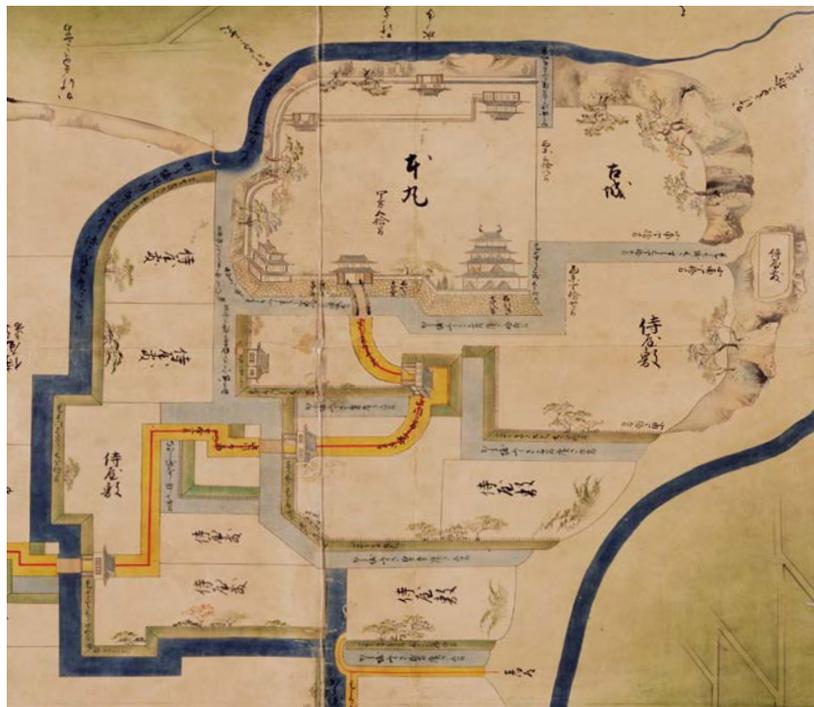


沼田城跡を上空から望む（令和2年8月撮影）
Aerial view of Numata Castle (August 2020)

行われ、その様子は「沼田城破却記」や「中根家所蔵 上州沼田城図」に記録されています。その後、本多氏、黒田氏、土岐氏によって三の丸に屋形が設置されましたが、天守等の施設は整備されることなく明治時代を迎えました。破城により沼田城の姿は失われましたが、その後、施設の再建が行われなかったため、破城時の姿が埋もれたまま保存されていると考えられます。

廃藩置県後、建造物や用地は払い下げられ、一部は学校用地、民間住宅地となりましたが、そのほとんどは荒地となりました。これを憂えた元沼田藩士家の久米民之助は、大正3年（1914）、私財を投じて、本丸・二の丸・三の丸の一部の用地買収を行い、同5年から総合公園を造成、

同15年当時の沼田町にこれを寄贈しました。こうして公有地化された沼田城跡の一部は、現在まで沼田公園として利用されています。公園整備により沼田城跡は大きく改変され、三の丸、外曲輪、総曲輪は市街化しましたが、堀跡等の窪地が城域であった痕跡を留めています。



正保城絵図 上野国沼田城図（部分） 右が北
国立公文書館デジタルアーカイブ

Kozuke Province Numata Castle Map (partial) - North is on the right

調査の成果

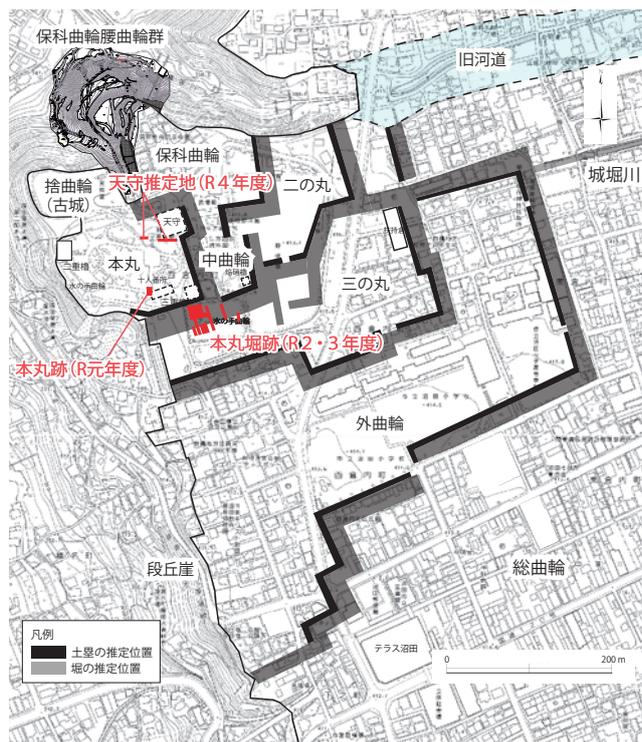
調査は発掘調査をはじめ、測量調査、地中レーダー探査、文献史料調査を行い、その成果は11項目に整理できます。

①沼田城地下遺構の保存状況

沼田城の姿が地下に良好に保存されていることがわかりました。これまで沼田城は、近代の公園整備等により大きく改変されてしまったと考えられていましたが、公園造成土により覆われ、よく保存されている部分もあることがわかりました。

②真田氏の3期にわたる沼田城整備

真田氏による沼田城整備を、天正期整備、慶長期整備、万治・寛文期整備の3期の整備が行われていると整理しました。本丸跡の発掘調査では2面が、天守推定地の発掘調査においては3面の整地面が確認され、大規模な整備が繰り返されている状況が読み取れます。また、北条氏が沼田城を支配している期間には北条氏が整備を加えている可能性があります。こうした沼田城の持



発掘調査地点
Excavation site

つ複雑な歴史背景が、沼田城の構造を捉えることを難しくさせています。

③沼田城で用いられた瓦の変遷と特徴

沼田城の瓦には、初期（17世紀初頭～前葉）と後期（17世紀中葉～後葉）の大



出土した沼田城初期の瓦（縮尺不同）
Roof tiles from early days of Numata Castle (not to scale)

大きく2段階の瓦が存在します。初期の瓦は関東の諸城郭においても最古級に位置付けられ、金箔瓦や洗練された文様が見られるなど、城郭瓦使用の最先端である織豊政権中心部の影響がうかがわれます。沼田城の瓦は、中世城郭から近世城郭への転換を瓦から捉えることができる好例です。なお、今回の調査で金箔瓦が新たに2点発見され、沼田城で発見された金箔瓦は合計3点となりました。

④本丸跡及び天守推定地における整地面と礎石

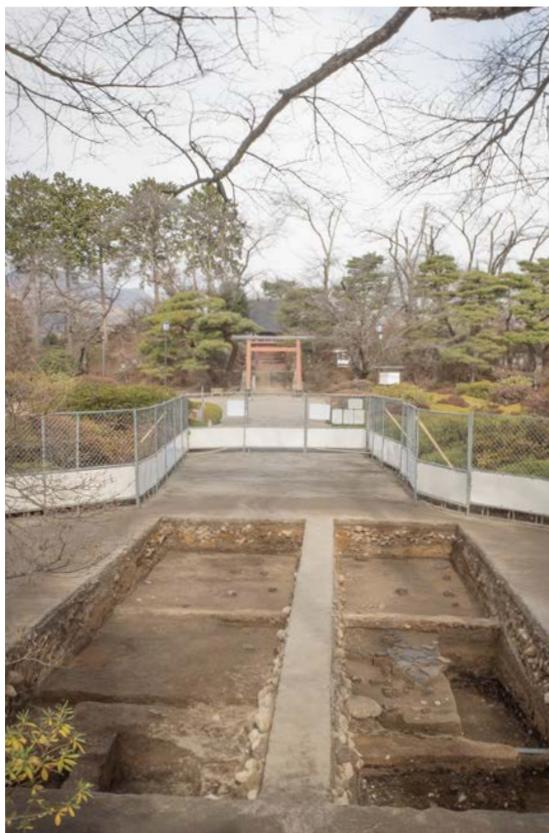
本丸跡の発掘調査において整地面を2面確認しました。慶長期整備及び万治・寛文期整備によるものと考えられますが、特に万治・寛文期整備は1.8mもの大規模な嵩上げが行われています。

天守推定地の調査においては整地面を3面確認しました。天正期、慶長期、万治・寛文期の3回の整備による整地面と考えられますが、慶長期及び万治・寛文期整地面において、天守に用いたと考えられる礎石を検出しました。正確な位置・規模は未だ不明ですが、ここに大型の建物が存在し、地盤の嵩上げを伴う建て替えが行われたことがうかがえます。この建物を天守と考えるならばその規模は3～5層と考えられ、建物あるいは天守台の平面規模から類推できる可能性もありますが、この点については未だ不明であり、答えを得ることができていません。

また、天守推定地は著しく改変されていますが、慶長期天守台の可能性のある遺構の一部が残存しており、確認できる範囲は東西44m、南北26mの範囲です。

⑤本丸跡で検出した柱穴跡

本丸跡において建物を構成する可能性がある柱穴を2本確認しました。「猿ヶ京区



沼田城の旧表土と天守推定地
Leveled ground of Numata Castle



沼田城の天守の柱を支えたと考えられる礎石
(上：万治・寛文期、下：慶長期)
Foundation stones

有文書「上野国沼田倉内城絵図」では、大門から本丸内に入ったやや南側に建物が描かれ、「川場村歴史民俗資料館蔵 沼田城下絵図」では同様の場所に施設があり十人番所とあります。十人番所は、寛文10年(1670)5月に建設されたことが文献に見え、今回検出した柱穴が掘立柱建物の柱穴であればこの十人番所の柱穴跡である可能性も考えられます。

⑥沼田城初期の堀跡

本丸堀よりも古い堀跡(馬出堀跡)を発見しました。馬出堀の存在は、そこに虎口があったことを意味しており、沼田城の縄張りが大きく改変されていることを示しています。真田氏によって近世沼田城が大規模に整備される以前の真田氏入部直後の沼田城の姿を初めて捉えたと言えます。



旧テニスコート 青：本丸堀跡 赤：古い堀跡
blue:moat trace
red:previously unknown moat



沼田城本丸東面石垣(上)と西櫓台石垣(下)
Stone wall of Honmaru (above) and Stone wall of west tower (below)

⑦石垣の特徴と変状及び修復

沼田城の石垣は、本丸東面石垣と西櫓台石垣の2か所が残されていますが、どちらも打ち欠く加工によって整形を行い、石垣の表面を整える意思が強く表れています。

また、石材の表面積を大きく見せるように積むなど石垣の見栄えを重視した構造をしています。横長大型の石材を弧状に積む点も特徴です。これらの石垣の構築された年代は明らかではありませんが、本丸東面石



沼田城跡現況測量図
Survey map of Numata Castle

垣よりも西櫓台石垣の方が垂直に近い勾配をしており、古い要素を持っています。石垣の石材は文献史料から、現在の奈良町奈良坂及び下久屋町観音坂で採取したものと考えられます。

西櫓台西面石垣は、平成16年の新潟県中越地震や、御殿桜の根の伸長によると考えられる変状が見られ、崩落の危険があります。なお、昭和58年に実施した西櫓台石垣修復工事について過去の記録を再構成し報告しました。

⑧保科曲輪腰曲輪群

北側段丘崖の腰曲輪群や道跡、湧水を利用したと考えられる施設の存在が明らかに

なりました。これらの施設は絵図面にも描かれており、沼田城が台地上だけでなく、段丘崖を巧みに利用した北向きの構造を持っていたことがわかりました。

北側斜面を意識した防御施設は、倉内城段階＝沼田氏段階の遺構を捉えている可能性も考えられます。

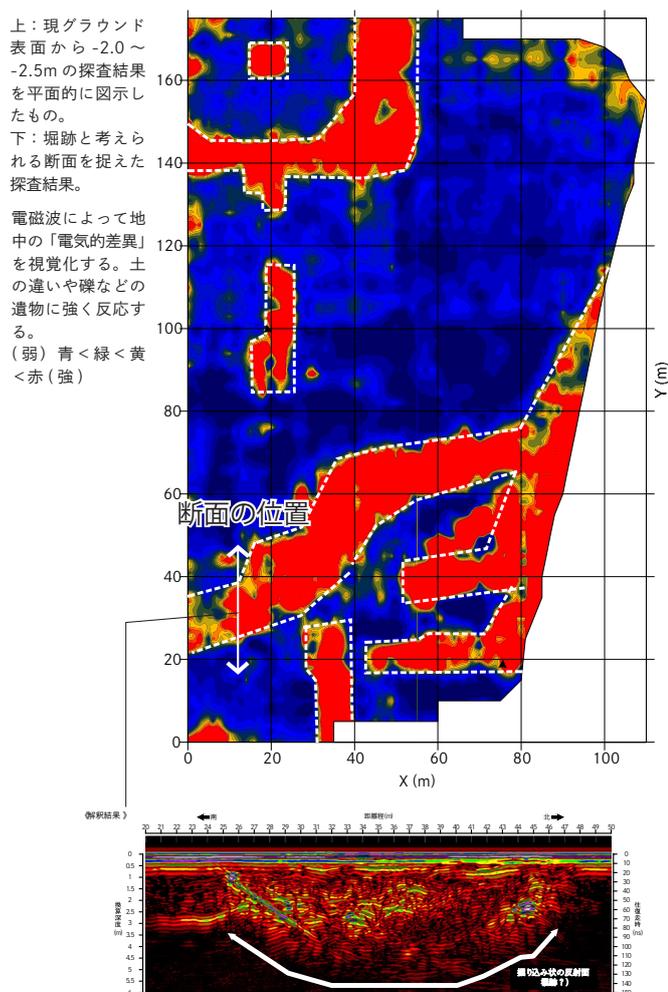
⑨沼田城の全体的な構造と規模・範囲

発掘が容易ではない市街地や、広範囲な探査が可能なグラウンドにおいて地中レーダー探査を実施しました。これにより二の丸・三の丸・外曲輪の堀跡の位置を把握し、沼田城の全体的な構造や規模・範囲を明らかにしました。沼田公園グラウンドにおいては、二の丸付近の堀跡が明瞭に現れ、その痕跡をクロップマーク（地下の状況が地表面の乾湿に影響し、植物の生育度合いに差が生じて見える模様）として目視することが可能であることを明らかにしました。

⑩絵図面との比較

慶長期整備による沼田城を描いた代表的な絵図面として「正保城絵図 上野国沼田城絵図」があります。発掘調査では主に破城時＝万治・寛文期整備による沼田城の姿を確認していますが、次のような絵図面と発掘調査成果とで共通する点及び異なる点の存在が明らかになってきました。

本丸堀跡の発掘調査で本丸南面に芝土居



グラウンドの地中レーダー探査結果
Results of Ground Penetrating Radar



地中レーダー探査の様子
Ground Penetrating Radar



沼田公園グラウンドの空中写真（令和3年5月撮影）
Aerial photo of Numata Park Ground (May 2021)



空中写真に地中レーダー探査結果を重ねたもの
With Results of GPR

を確認しましたが、「正保城絵図」では、本丸南面石垣は南東隅櫓直下にだけ存在することが確認でき、今回の調査区においてその境を確認したものと考えられます。このことは「正保城絵図」の表現が正確であり、かつ慶長期と万治・寛文期でこの地点の構造に変化がないことを物語っています。

また、「正保城絵図」では慶長期の天守や櫓、塀などが白壁として描かれていますが、本丸堀跡からは漆喰が出土せず代わりに釘が多数出土した事実からすると、万治・寛文期の天守や櫓等の施設が「正保城絵図」に描かれたような白壁ではなく、板壁の建物であった可能性が高いものと考えられます。この違いが生じる原因は二つ考えられ、一つは慶長期整備の施設は白壁であったが、万治・寛文期整備の施設が板壁

であった可能性、もう一つは慶長期整備の建物も万治・寛文期の建物も板壁であったが、何らかの意図で白壁として描いたとする可能性です。後者のように意図的であるならば「正保城絵図」に描かれたその他の情報についても疑問を呈する必要性が生じます。

⑪破城遺構

本丸堀跡の発掘調査において、天和2年（1682）に行われた真田氏改易に伴う沼田城の破城の痕跡を検出しました。沼田城の破城については、その状況を記録した文献史料「沼田城破却記」、破城の場所・方法等を示したと考えられる絵図面「中根家所蔵 上州沼田城図」にその様子が描かれていることが知られています。沼田城跡は、これらの情報と発掘調査成果とを統一的に考えることができる稀有な事例です。



破城時に本丸堀跡に投棄された沼田城の瓦
Roof tiles from Numata Castle dumped at the Honmaru moat



瓦の調査の様子
Roof tile survey



ほぼ完形で出土した沼田城の瓦
Complete roof tiles

沼田城跡の本質的価値

調査によって得られた成果を踏まえて、沼田城跡の本質的価値を以下のとおり整理することができます。

①戦国時代における地勢上の要衝にある城であり、近世への変換期を語る上で欠かせない城である

沼田城は、戦国時代には上杉氏・北条氏・武田氏によって争奪が繰り返されました。豊臣政権による全国統一の契機となった歴史的事件「名胡桃城事件」の舞台となり、戦国時代末期から江戸時代初期には真田氏の領国経営の拠点として機能しました。この間、争奪が行われるたびに手が加えられ、真田氏は3期にわたる大規模な整備を行いました。そのため、沼田城跡には複雑な普請の歴史と痕跡が見られ、地勢上の価値の高さを物語っており重要です。

②近世城郭としての姿がよく残されている

本丸跡の発掘調査により複数の整地面が

確認され、天守台や天守に関係すると考えられる情報が得られました。グラウンドでは二の丸付近の堀跡が明確に捉えられ、市街地にも堀跡が痕跡を留めています。沼田城の姿は地下に良好に保存されており、近世城郭としての姿が現在の市街地においても良く保存されており貴重です。また、「正保城絵図」をはじめ数多くの城絵図が残されています。

③破城遺構、文献史料、絵図を相互比較して研究することができる稀有な城である

本丸堀跡の発掘調査で、破城の実態や過程を示す破城遺構が確認されました。沼田城の破城については、その様子や工程などを記録した「沼田城破却記」、破城の際の指示が描かれた絵図「中根家所蔵 上州沼田城図」があり、発掘調査成果と文献史料・絵図を相互に比較研究することができる稀有な存在と言えます。



沼田城二の丸跡 地下に堀跡が保存され、市街地における貴重な広場として市民に愛されている
Numata Castle Ninomaru

破城の痕跡が示すもの

大小の城が乱立する戦国時代において、戦国大名は領域の支配を強化する過程で敵対する者の城を破却する政策を行った。主要施設のほか、石垣、土塁などが破壊され、埋められた。このような政策は破城（はじょう）、あるいは城割（しろわり）と呼ばれ、戦の拠点となる城郭を破壊するだけでなく、相手の権威を否定する意図も込められていた。

戦国時代末期、織田・豊臣政権による天下統一の過程でも破城政策が進められ、これを引き継いだ徳川政権はこの政策をさらに大きく展開させた。いわゆる「元和の一国一城令」である。これにより大名は領国に居城一城のみが許され、「武家諸法度」により城郭の修繕であっても幕府への報告が義務付けられたのである。

徳川政権による破城政策は、戦の拠点となる城郭を破壊し、権威を否定し、諸大名の軍事力を削ぐだけでなく、日本社会から戦の拠点となる城郭を激減させた。破城政策は、近世の200年以上も国内戦

争のない平和な社会の創出に、重要な役割を果たしたのである。

関東で戦国時代以来の領地を近世も保持した大名は真田氏だけである。真田氏の居城である沼田城跡には、戦国時代に繰り返された争奪と普請の痕跡が積み重なっている。その沼田城も、真田氏の改易に伴い破城された。このことは戦乱から泰平の世への転換を象徴しているようである。沼田城跡の破城遺構は、中世社会から近世社会への転換の歴史を私たちに示している。

参考文献：福田千鶴 2020『城割の作法』吉川弘文館



破城時に廃棄された瓦 / Dumped roof tiles

沼田城跡の調査に関する情報はこちらでご覧いただけます（全て沼田市教育委員会が発行）

- 『沼田城跡』 沼田公園長期整備構想に伴う沼田城跡発掘調査報告書 2001
- 『沼田城跡2』 沼田公園長期整備構想に伴う沼田城跡発掘調査報告書 2019
- 『沼田城跡 令和元年度調査概要報告書』 沼田公園長期整備構想に伴う沼田城跡発掘調査報告書 2022
- 『沼田城跡 令和2・3年度調査概要報告書』 沼田公園長期整備構想に伴う沼田城跡発掘調査報告書 2023
- 『沼田城跡 石垣調査報告書』 沼田公園長期整備構想に伴う沼田城跡石垣の調査 2024
- 『沼田城跡 調査総括報告書』 沼田公園長期整備構想に伴う沼田城跡調査報告書 2025
- 『発掘された真田の城 沼田城跡』 沼田市指定史跡沼田城跡調査・保存整備事業の成果1 2021
- 『発掘された真田の城 沼田城跡』 沼田市指定史跡沼田城跡調査・保存整備事業の成果2 2021
- 『発掘 沼田城かわら版』第1号 2022
- 『発掘 沼田城かわら版』第2号 2023

「全国文化財総覧」で公開しています
<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>



Numata Castle Investigation Report

Summary

Overview of Numata Castle

Numata Castle was built by the Numata clan around 1532, and was called Kurauchi Castle at this time. Around 1556~79, the Hojo clan of Sagami, the Uesugi clan of Echigo, and the Takeda clan of Kai repeatedly vied for control of Numata.

In 1580, the Sanada clan under the Takeda clan took possession of the area, and from then on, the castle came to be known as Numata Castle.

In 1597, Sanada Nobuyuki built a five-story keep. Its appearance is depicted in the “Shoho Castle Map: Kozuke Province Numata Castle Map” created in 1644, and the image of “Numata Castle with a five-story keep” is shared by many people today.

In 1681, the Sanada clan was punished by having their samurai status revoked and Numata Castle was demolished in 1682.

Results of the investigation

The investigation revealed many new facts about Numata Castle.

1. The underground remains are well preserved.
2. The maintenance of Numata Castle by the Sanada clan took place three times.
3. The roof tiles used in the early period are the oldest in the Kanto region and were influenced by the Oda-Toyotomi regime.
4. The main citadel underwent large-scale leveling, and the foundation stones of the castle keep were found.
5. The remains of post holes for the remains of buildings were discovered in the main citadel ruins.
6. The remains of a moat from the early period of Numata Castle were discovered.
7. The stonewalls were found to be constructed with an emphasis on appearance, and some of them were found to be deformed.
8. The structure utilizing terrace cliffs was confirmed.
9. Ground Penetrating Radar investigated revealed the structure of the entire castle.
10. Part of the castle was compared with the “Shoho Castle Map” and it was confirmed that there was no structural change.
11. Traces of the destruction of Numata Castle were discovered.

The Value of Numata Castle

Numata Castle was evaluated as valuable due to its importance as a geographical and strategic stronghold during the Sengoku period(around 1467~1573), its excellent state of preservation, and the discovery of ruins from the destruction of the castle.

交通アクセス

- 名胡桃城跡から /from Nagurumi Castle 7.3km 13min (国道 17 号経由)
- 岩櫃城跡から /from Iwabitsu Castle 28.4km 47min (国道 145 号経由)
- 箕輪城跡から /from Minowa Castle 40.4km 45min (関越自動車道経由)、33.6km 57min (国道 17 号経由)
- 金山城跡から /from Kanayama Castle 80.1km 1h6min (北関東自動車道・関越自動車道経由)
68.3km 1h40min (国道 17 号経由)
- 唐沢山城跡から /from Karasawasan Castle 97.8km 1h16min (北関東自動車道・関越自動車道経由)
- 上田城跡から /from Ueda Castle 152km 1h59min (上信越自動車道・関越自動車道経由)
101km 2h25min (国道 145 号経由)



公共交通機関利用の場合

JR 上越線 沼田駅から 徒歩 1.1km 18min 段丘崖 80m 登る 歩行困難

沼田駅から関越バス鎌田線 テラスぬまた・市役所前下車 徒歩 600m 8min 歩行困難

車利用の場合

関越自動車道沼田 IC から沼田市街地方面・環状線経由で 9 分 歩行困難

国道 17 号 下川田町交差点から沼田市街地方面・遊覧坂経由で 7 分 歩行困難

国道 17 号 新薄根橋交差点から沼田市街地方面・榛名坂経由で 5 分 歩行困難

発掘された真田の城 沼田城跡 沼田市史跡沼田城跡調査・保存整備事業の成果 3

沼田市教育委員会文化財保護課

〒 378-8501 群馬県沼田市下之町 888 TEL0278-23-2111

発行日 令和 7 年 8 月 1 日 第 1 刷